

一般財団法人京都ボーイスカウト振興会  
平成 28 年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日）  
事 業 計 画

1. はじめに

昨年度は、日本ボーイスカウト京都連盟（以下「京都連盟」という）創立 100 周年、第 23 回世界スカウトジャンボリー開催と、画期となる大きな事業が展開された。ボーイスカウト運動の振興という点で、一般社会にどれだけ認知されたか、その成果として加盟員数増加に結びついたか、が次年度以降の率直な評価となる。

とくにジャンボリーは、過去 2 回の開催国であるイギリス、スウェーデンにおいて開催後、加盟員数が V 字回復している。これらは開催前から、マーケティングの手法による綿密に練られた戦略の結果であり、これに相当する計画が日本連盟や京都連盟に見当たらない。早急に立案し成果が生まれる体制づくりを支援したい。

そのために従来の京都連盟行事への支援に加えて、京都連盟とともに加盟員増加のためのバックグラウンドを充実させる。

次のそれぞれの事業ごとの計画を策定し実行することによって、京都府下のボーイスカウト運動を振興し、もって、青少年の品性の向上および国際友愛精神の育成を図っていく。

- (1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業
- (2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業
- (3) 指導者養成のためのプログラム企画運営事業
- (4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のため  
共催事業
- (5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業

2. 事業計画の内容

- (1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業

(ア) 助成の対象

京都府下において、ボーイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボーイスカウト運動を行う団体

(イ) 助成の趣旨・用途

ボーイスカウト運動にかかる講習・実修・研修・キャンプに要する経費、スカウト派遣に要する経費、その他ボーイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ウ) 事業予算

事業費として、1,300 千円を見込む。京都連盟の 28 年度事業費予算のうち、進歩費、国際費、安全費、環境費、コミッショナー費、イベント費等に必要となる事業費に対して助成する予定である。

(I) 助成対象者からの助成申請及び実績報告

助成対象者からは書面による助成申請（事業の収支予算及び事業の実施概要）を受け、書面による実績結果（事業の収支決算及び事業の実施状況）を受ける。なお、助成申請及び実績報告は、助成対象者の組織的な機関決定を経たものであることを条件とする。

(2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア) 体験活動の所在地

広河原野営場：京都市左京区広河原尾花町 27 番地

（当法人所有：山林 22,559 平方メートル、原野 521 平方メートル）

(イ) 体験活動の運営主体

日本ボーイスカウト京都連盟

(ロ) 体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供する。

(I) 事業予算

事業費として、111 千円（整備委託費 30 千円、減価償却費 81 千円）を見込む。

(カ) 広河原野営場近隣における舎営施設土地建物を取得または賃借を受ける予定である。

所有者との交渉を継続している。

(3) 指導者養成のためのプログラム企画運営事業

(ア) 趣旨

ボーイスカウト関係者（OB、指導者、保護者等）が、学校の PTA 会長や、町内会長、社会福祉協議会の各種団体長などによって地域社会に貢献している例を発掘し、スカウト運動と地域との連携を考え、今後のあり方を探るために、座談会、またはシンポジウムを開催する。

(イ) 参加者の募集方法

京都連盟及び当法人からのスカウトメンバーの保護者等への案内、ホームページを通じた募集

(ロ) 開催場所

公共施設を予定

(I) 予算

事業費として、200 千円（講師料等 150 千円、会場使用料 50 千円）を見込む。

(4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業

(ア) 国際交流・国際貢献活動支援

ボーイスカウトを対象に海外キャンプへの派遣、海外スカウトのホームステイ受入、国際協カプロジェクトの派遣実施等を予定している。

(f) 社会に役立つ事業活動支援

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会、全国車いす駅伝競走大会、視覚障害者マラソン  
京都大会の沿道整理奉仕

(g) 環境まち美化活動支援

「みどりの募金」活動、京都市「まち美化運動」に参加

(5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業

(ア) ホームページの充実により、組織内外のコミュニケーションを促進する。

- ① 一般の子どもや保護者が参加可能な団主催「スカウト体験と説明会」や地区主催「ビーバーランド」「カブラリー」等、スカウトの日（ゴミ拾い等の奉仕活動を実施する日）等について、ホームページにて告知し、地域の青少年の参加を促す。
- ② ボーイスカウト・指導者等のボーイスカウト関係者、維持会員、並びに不特定多数の皆様に対して、ホームページを通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行う。
- ③ ボーイスカウト運動の振興を図るために維持会員及び潜在的な維持会員に対して、ホームページを通じて、会費の協力を依頼する。

(イ) 加盟員増加「V字回復計画」を策定し、京都連盟に提案する。

- ① 大学等の第三者機関に、スカウト運動の認知度についての調査を依頼し、一般社会からボーイスカウト運動がどのように見られているか提示する。
- ② 新規発団が続出した30年以上前の発展期は、宗教団体の青少年教化活動や、学校の課外活動としてボーイスカウト育成を推進する「攻め」の普及啓蒙があった。現在その熱意は冷め、団を維持存続する「守り」に徹する傾向がないか、点検する。
- ③ 虐待、貧困、父子・母子家庭、子どもの学力・大人の規範意識の低下、犯罪の低年齢化、就活の非効率・就職のミスマッチング、非婚化、真のワークライフバランス等の社会問題について、スカウト教育法が貢献できることを提案する。
- ④ OBの復帰受け皿としての「サポーター制度」を確立する。

(ウ) 競合する他団体とのパートナーシップを築く

- ① 各大学には学生の学外ボランティア活動を推進する仕組みがある。この事業と連携して、とくに他府県からのスカウト経験者を発掘し、大学ローバーのみならず、団の指導者として迎える体制をつくる。
- ② 子ども人口の減少、価値観・自己実現の多様化により、団体存続の危機感をもつ他団体と連携し、解決策を探り協同する。

(I) 事業予算

事業費として、700千円（普及宣伝費200千円、ホームページ運営改革費350千円、  
通信運搬費50千円、印刷製本費100千円）を見込む。 以上